

令和元年6月27日

建設委員会資料

活力都市創造部

〔報告事項〕

目 次

- 1 高齢社会における交通と健康モニタリング調査分析結果について・・・1
- 2 中心市街地活性化基本計画の進捗について・・・・・・・・・・・・・・7

# 高齢社会における交通と健康モニタリング調査分析結果について

〔中心市街地活性化推進課〕

## 1. 中心市街地滞在状況調査

### (1) 調査概要

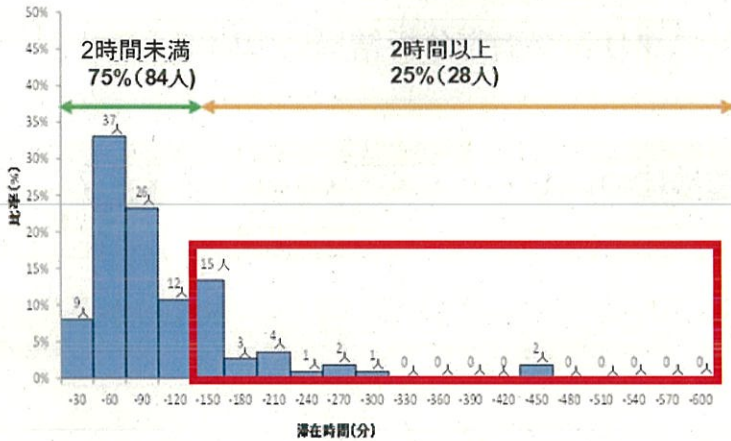
平成30年7月7、8、13、15日にグランドパーキング、総曲輪バス停、グランドプラザ停留所付近で来街者に調査用端末機「おでかけっち」を配布し、取得したデータから、来街交通手段別（自家用車、公共交通）に平均滞在時間等の分析を行った。

※調査・分析対象者 179名

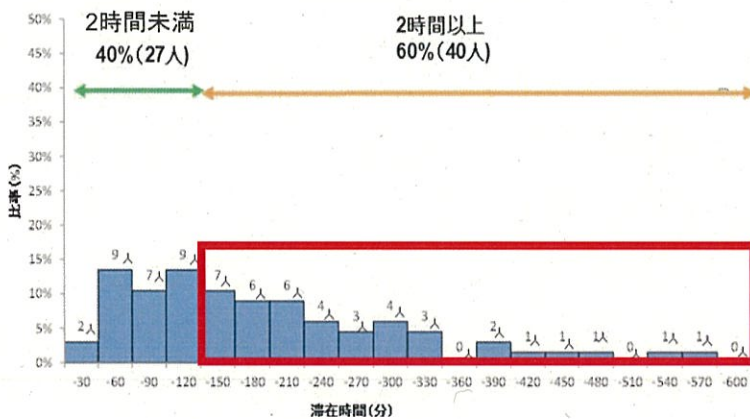
### (2) 分析結果

#### ① 平均滞在時間・平均歩数

- ・ 中心市街地での2時間以上の滞在は、自家用車で来街した人は25%であるのに対し、公共交通で来街した人は60%である。【図1、2参照】
- ・ 公共交通で来街した人の平均滞在時間は178分（約3時間）であり、自家用車で来街した人の約2倍である。【図3参照】
- ・ 公共交通で来街した人の平均歩数は、自家用車で来街した人の約1.8倍となっている。【図3参照】



【図1】自家用車利用者の滞在時間ヒストグラム



【図2】公共交通利用者の滞在時間ヒストグラム

平均滞在時間(分)	
自家用車	公共交通
92.81	178.52
中心市街地での平均歩数(歩)	
自家用車	公共交通
1,126.04	2,023.31

約2倍 (比較: 公共交通 / 自家用車)

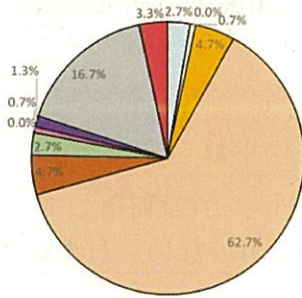
約1.8倍 (比較: 公共交通 / 自家用車)

【図3】交通手段別平均歩数、平均滞在時間の比較

② 訪問先・平均訪問箇所数・回遊状況

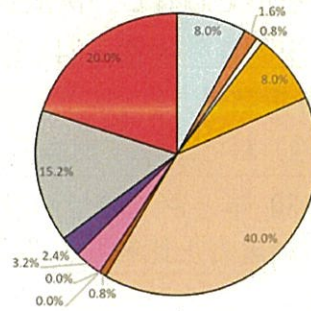
- ・ 公共交通で来街した人のほうが、自家用車で来街した人より、平均訪問箇所数が多く、中心商業地区のみならず、富山駅周辺地区も含め、広範囲に回遊している。【図 4～7 参照】

平均 1.34 箇所



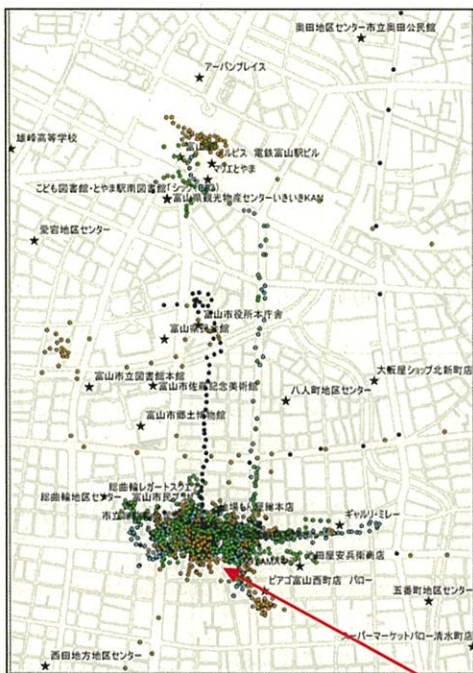
【図 4】自家用車利用者訪問先・平均訪問箇所数

平均 1.87 箇所

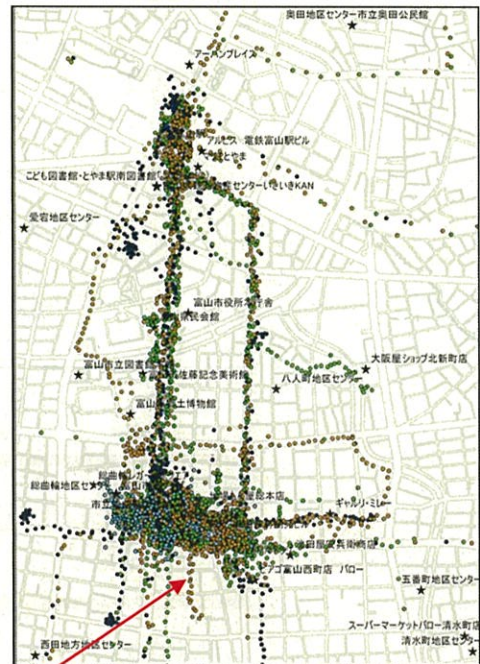


【図 5】公共交通利用者訪問先・平均訪問箇所数

- |             |               |                |
|-------------|---------------|----------------|
| □ TOYAMAキラリ | ■ 城址公園        | □ 市役所          |
| ■ 地場もんや     | ■ 大和・フェリオ     | ■ 総曲輪レガートスクエア  |
| ■ 市民プラザ     | ■ 国際会議場       | ■ J-MAX        |
| ■ ユウタウン総曲輪  | ■ その他(中心商業地区) | ■ その他(駅南・駅北地区) |



【図 6】自家用車利用者回遊データ



【図 7】公共交通利用者回遊データ

「おでかけっち」配布場所

凡例 ● 09:00-11:59 ● 12:00-14:59 ● 15:00-17:59 ● 18:00-23:59  
 ※調査用端末機「おでかけっち」で10秒毎に取得した位置情報データ(GPS)で観測した時間

## 2. 高齢者交通行動調査【パネル調査】

### (1) 調査概要

平成 28 年度の調査協力者のうち同意を得た方に再度「おでかけっち」を配布し、取得したデータから、「おでかけ定期券」所有、利用の有無による歩数の経年変化の分析を行った。

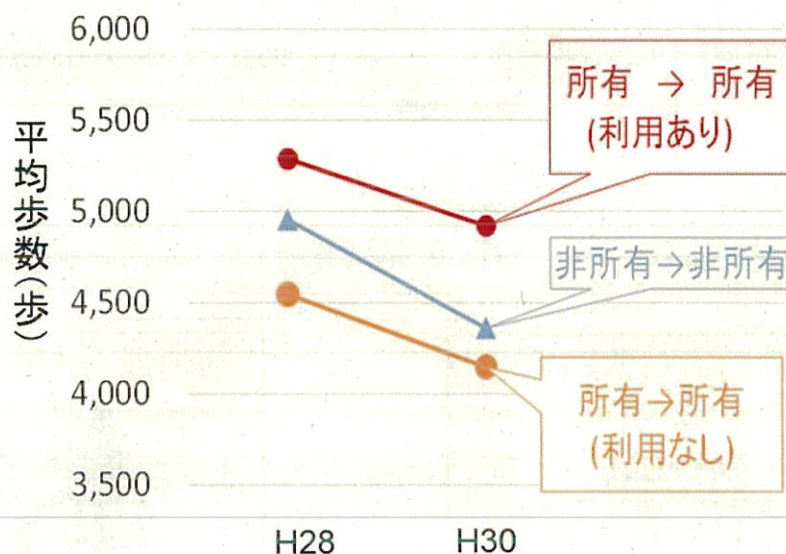
また、同意を得た国民健康保険加入者及び、後期高齢者医療制度対象者の医療費を市で調査し、医療費と交通行動との相関の分析を行った。

※調査参加者 644 名

### (2) 分析結果

#### ① おでかけ定期券所有及び使用と平均歩数

- 28、30 年とも「おでかけ定期券」を所有し、かつ利用していた人は、非所有者、非利用者と比較し、歩数が多く、減少幅が少ない。【図 8、9 参照】



【図 8】「おでかけ定期券」所有、利用別 1 日の平均歩数 (H28、30)

	H28歩数①	H30歩数②	②-①
所有→所有 (利用あり)	5,287歩	4,920歩	▲367歩
非所有→ 非所有	4,954歩	4,361歩	▲593歩
所有→所有 (利用なし)	4,546歩	4,147歩	▲399歩

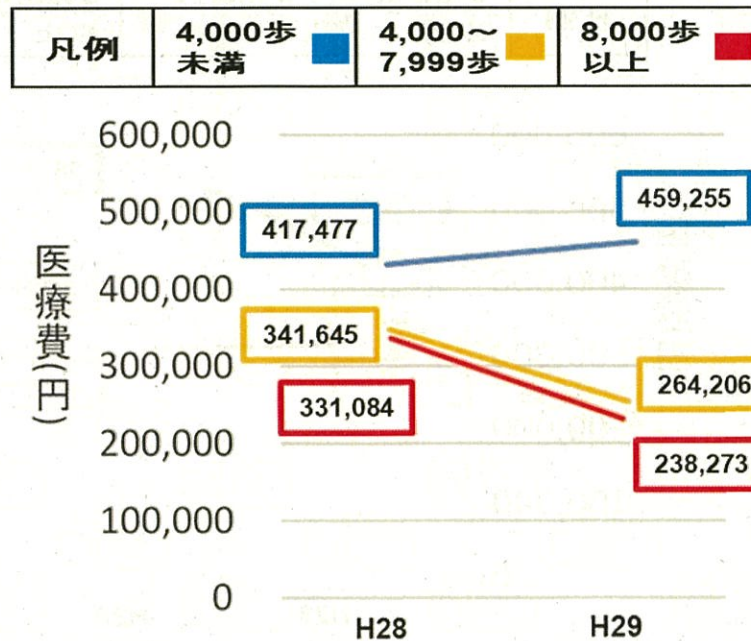
【図 9】「おでかけ定期券」所有の有無による 1 日の平均歩数の変化 (H28、30)

② - 1 歩数と医療費（前期高齢者）

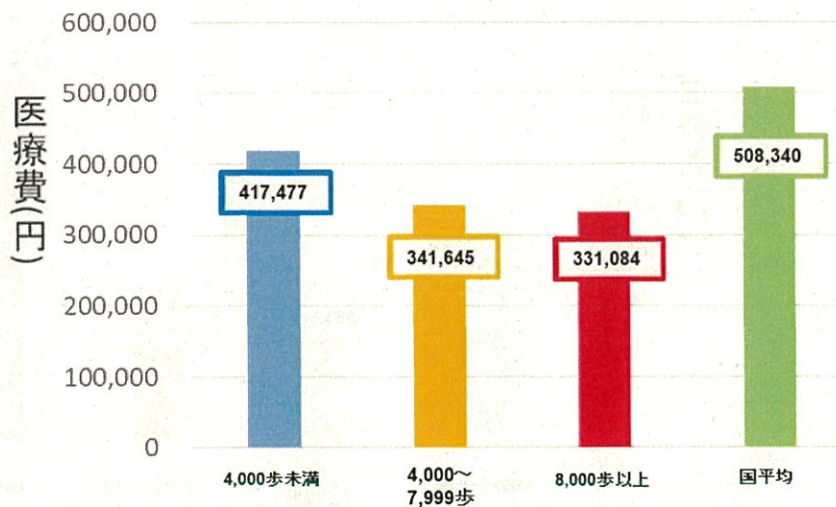
- ・ 28年から29年にかけて、28年度の1日の歩数が4,000歩未満の人の平均医療費が上昇しているのに対し、4,000～7,999歩および8,000歩以上の人の平均医療費は減少している。【図10参照】
- ・ また、国の前期高齢者平均医療費よりも少なくなっている。

【図11参照】

※1日8,000歩・・・スポーツ庁「FUN+WALK PROJECT」の目標歩数



【図10】 H28年度の1日平均歩数とH28、29年度平均医療費  
（前期高齢者、要支援・介護認定なし、歩行補助なし）



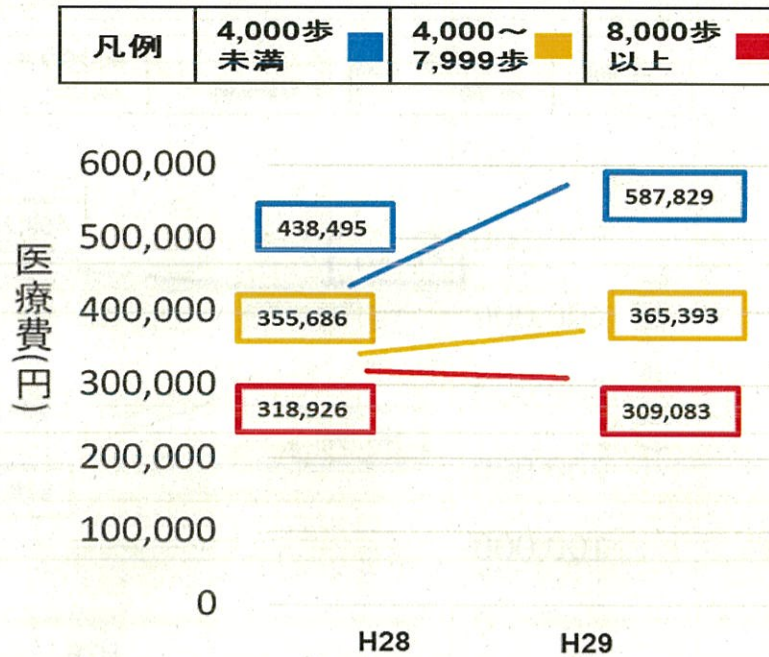
【図11】 H28年度歩数別平均医療費とH28年度国の前期高齢者  
（国保加入者）平均医療費の比較

② - 2 歩数と医療費（後期高齢者）

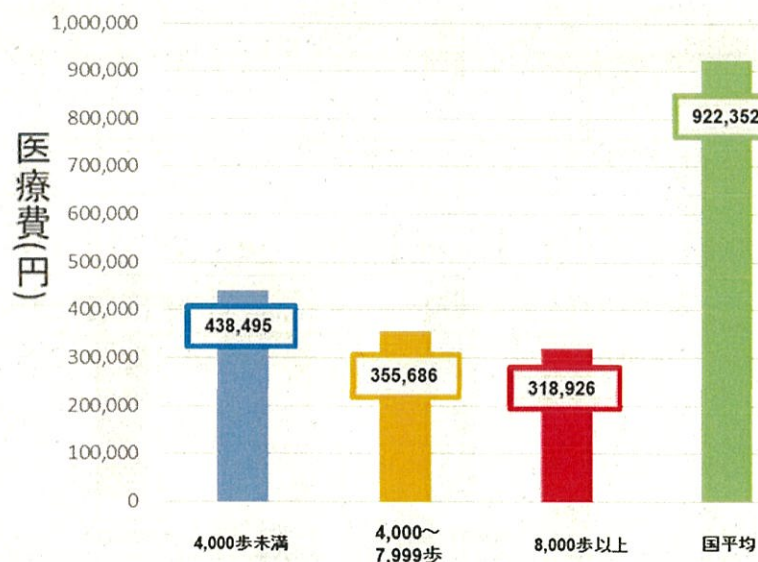
- 28年から29年にかけて、1日の平均歩数が4,000歩未満および4,000～7,999歩の人の平均医療費が上昇しているのに対し、8,000歩以上の人の平均医療費は減少している。【図12参照】
- また、国の後期高齢者平均医療費よりも大幅に少なくなっている。

【図13参照】

※1日8,000歩・・・スポーツ庁「FUN+WALK PROJECT」の目標歩数



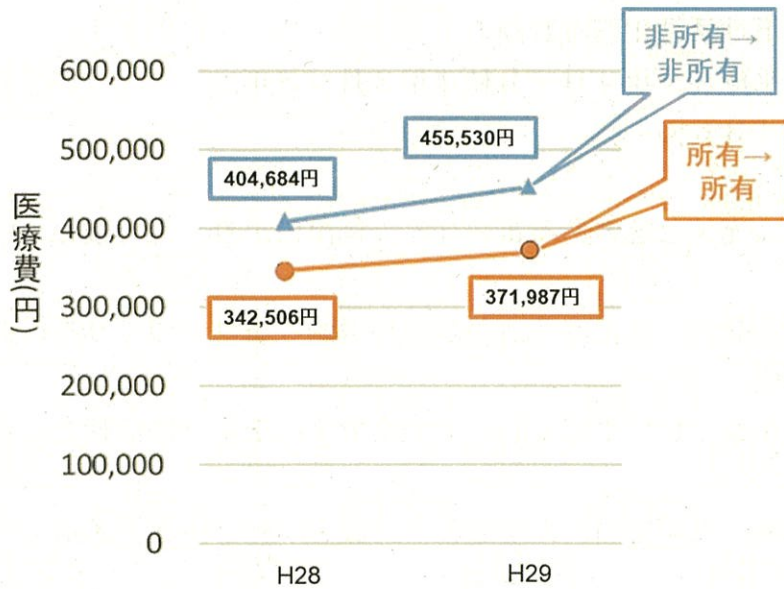
【図12】 H28年度の1日平均歩数とH28、29年度平均医療費  
(後期高齢者、要支援・介護認定なし、歩行補助なし)



【図13】 H28年度歩数別平均医療費とH28年度国の後期高齢者医療者制度対象者平均医療費の比較

### ③ おでかけ定期券所有別医療費

- ・ 28年から29年にかけて、「おでかけ定期券」を継続して所有していた人は所有していなかった人よりも医療費が少ない。【図14参照】



【図14】「おでかけ定期券」所有別 H28、29 年度平均医療費  
(全高齢者、要支援・介護認定なし、歩行補助なし)

#### 【参考】

医療費の差 年間1人あたり 72,860円 (28、29年平均)  
 × おでかけ定期券の所有者 24,972人 (30年度末)  
**=約18億2千万円の医療費低減効果**  
 (※ あくまで単純計算上の数値です。)

# 富山市中心市街地活性化基本計画の進捗について

〔中心市街地活性化推進課〕

## 1. 富山市中心市街地活性化基本計画

(1) 計画期間：平成29年4月～令和4年3月（5年）

(2) 区域面積：436ha

### (3) 基本方針

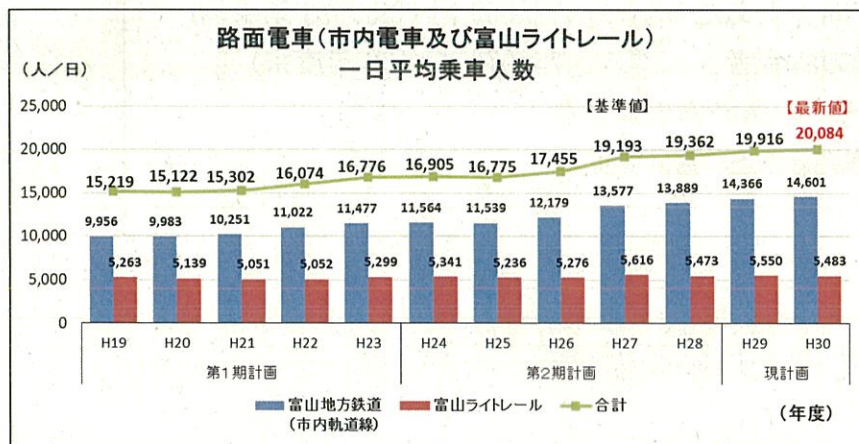
- ①移動環境の充実と魅力あるまちなみの創出により、人で賑わう中心市街地の形成
- ②まちなかの商業、文化等を活かした特徴的なエリアづくりを推進する中心市街地の形成
- ③都市機能が集積し、生涯安心して健康でアクティブに活動できる中心市街地の形成

(4) 目指す都市像：人が集い、人が賑わう、誰もが生き生きと活躍できるまち

## 2. 目標指数の達成状況

### (1) 路面電車（市内電車及び富山ライトレール）一日平均乗車人数

活性化の目標	目標指標	基準値	目標値	最新値
公共交通の強化と魅力ある都市空間の創出	路面電車（市内電車及び富山ライトレール）一日平均乗車人数	19,193人/日 (平成27年度)	20,000人/日 (令和3年度)	20,084人/日 (平成30年度)



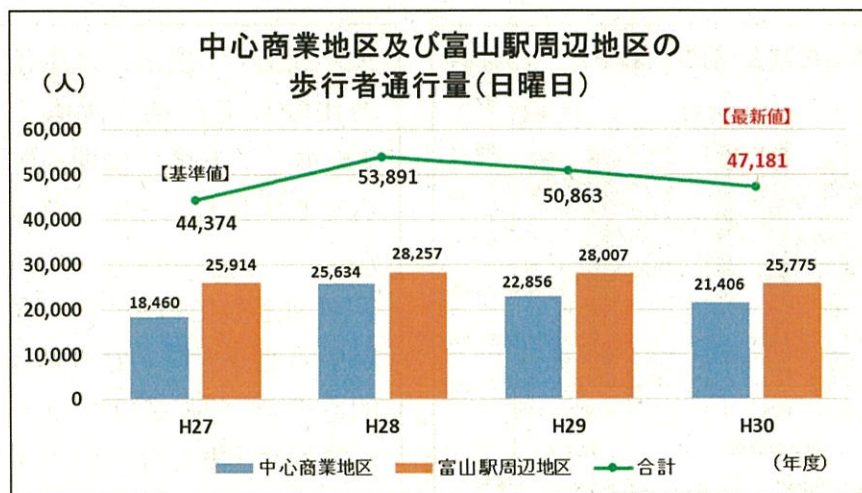
・平成30年度は、基準値と比較して891人の増加となった。

・要因としては、路面電車内線が新幹線高架下への乗り入れを開始した効果が継続して現れていること、高齢者の外出を促進する「おでかけ定期券事業」などが大きく寄与していると思われる。



### (2) 中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量（日曜日）

活性化の目標	目標指標	基準値	目標値	最新値
伝統と革新が融合した商業・賑わいの再生	中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量（日曜日）	44,374人/日 （平成27年度）	46,000人/日 （令和3年度）	47,181人/日 （平成30年）

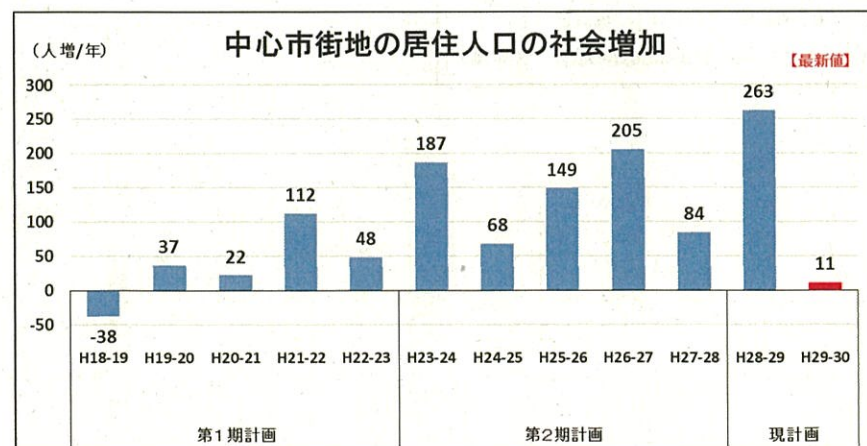


・平成30年度は、基準値と比較して2,807人の増加となった。

・要因としては、区域内に複合商業施設が続けて開業したこと、「グランドプラザ」や「ウエストプラザ」での賑わいの創出などが大きく寄与していると思われる。

### (3) 中心市街地の居住人口の社会増加

活性化の目標	目標指標	基準値	目標値	最新値
誰もが生き生きと暮らし活躍している選ばれるまち	中心市街地の居住人口の社会増加	747人増 74人増/年 （平成17年から平成27年の10年間）	370人増 74人増/年 （平成28年から令和3年の5年間）	274人増 137人増/年 （平成28年から平成30年の2年間）

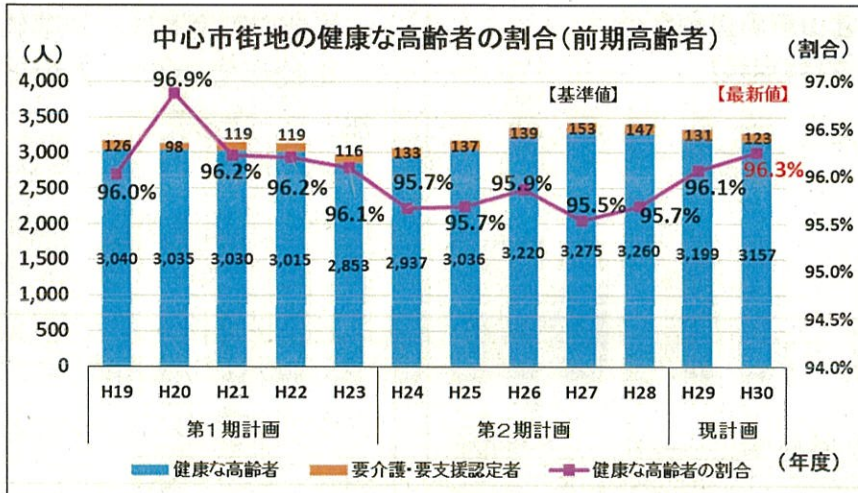


・平成30年度は、累計で274人の増加となった。

・要因としては、生活利便施設などの整備により、まちなかでの居住ニーズが高まり、民間による分譲マンションの建設が続く好循環が生まれたことなどが大きく寄与していると思われる。

#### (4) 中心市街地の健康な高齢者の割合

活性化の目標	目標指標	基準値	目標値	最新値
誰もが生き生きと暮らし活躍している選ばれるまち	中心市街地の健康な高齢者の割合	前期高齢者 95.5% 後期高齢者 62.9% (平成 27 年度)	前期高齢者 95.6% 後期高齢者 62.9% (令和 3 年度)	前期高齢者 96.3% 後期高齢者 64.8% (平成 30 年度)



・平成 30 年度は、基準値と比較して前期高齢者で 0.8 ポイント増、後期高齢者で 1.9 ポイント増となった。

・要因としては、「角川介護予防センター」での複合的な介護予防プログラムの提供や「まちなか総合ケアセンター」での総合的な支援などが大きく寄与していると思われる。

